

古民家の再生および地域イベントの実践を通じた
地方創生に対する取り組みについて
——京都府綾部市をフィールドにした諸活動の記録と展望——

社会学部現代社会学科 2022034

指導教員 崎本 武志

氏名 古割 大地

要旨

この卒業論文では、私が 2021 年の大学 2 年次から京都府綾部市の山間部に位置する古民家の再生と利活用を目指し、友人とともに立ち上げたプロジェクト「BASE-LICHT 計画」について、その活動プロセスと成果を中心にまとめたものである。

本論文では主に私たちが「BASE-LICHT 計画」の一環として開業した 1 日 1 組限定の古民家一棟貸しレンタルスペース「古民家レンタルスペース HIKARI」を軸に据えた古民家の再生と利活用に関する事例、また古民家を使った自主企画イベント「古民家アート展 2023」について実際のプロセスと成果を記録したものである。

序論では、私が友人と共に立ち上げた「BASE-LICHT 計画」の概要と、本論文の舞台となる京都府綾部市に関する情報を簡単にまとめている。

第一章では、そもそもなぜ私がこのような活動を始めるに至ったのかについて、その理由やきっかけを徹底的に掘り下げたうえで解説している。またこの章では、私と友人がどのような経歴を持つ人物であるのかについても具体的に説明を行う。

第二章では、私が友人と立ち上げた「BASE-LICHT 計画」について、その具体的な内容と活動プロセスについて主に解説をする。私たち 2 人がどのようにして綾部市をフィールドに古民家と地域の再生に乗り出し、活動を展開していったのかを主に記述している。

第三章では、レンタルスペース運営事業の失敗という大きな挫折を経て、イベントの開催という新たな一手を打ち出すまでのプロセスと、「古民家アート展 2023」に関するアンケートを含めた結果の分析、またイベントを通して大きく広がった地域とのつながりから、地域活性化という課題に対するイベントの有用性について記述する。

第四章では、他の論文も交えながら地方創生の要とも言える移住について、移住が盛んな綾部市の調査事例を踏まえて現状の提示と移住によって生じる課題の解決について記述する。

結論では、日本の古民家には大きな可能性と様々な使い道が残されており、これを有効的に活用することで増加する空き家問題や地方集落の衰退に歯止めをかけられるということ。また、地域活性化のためには地域密着型のイベント開催が一定の効果を発揮するという、私たちがこれまで実際に取り組んできた活動を通して主張している。